一般社団法人 岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会
発行人／会長　坂本　洋
編集人／政策委員会

〒020-0024 盛岡市菜園一丁目3番6号農林会館6階
☎(019)654-1434　Fax(019)654-1437
ホームページ　http://iwakids.ciao.jp/
Eメール　iwasiyou@hyper.ocn.ne.jp

I W A S H I Y O U R E N　発行／令和3年2月19日

# 広報岩私幼連

VOL 114

（題字は工藤巌元岩手県知事）

**シンボル・マーク**
子と親・幼稚園がともに手をとりあって未来への飛躍を願うもので、親と幼稚園が子どもを育む姿を岩手の「い」に象徴している。

『氷のゲレンデ　すべ～る　すべ～る』

# ポストコロナ時代の幼児教育課題

(一社)岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会
会長 坂本　洋

新年を迎えましたが、首都圏を中心に緊急事態宣言が再び発出され、COVID-19の猛威は収束の兆しが見えません。昨年中を通し三密回避等で、新しい生活様式、働き方改革が注視され、個人が場所と時間を選択するテレワーク等の働き方の個別化を前提とした経済・社会構造への移行が注目されております。

## 1、幼児教育・保育現場でのテレワーク業務とは

さて私ども幼児教育施設でのテレワークとは？　私どもは新型コロナウイルス禍にかかわらず、日常的感染症予防を重視しております。前号「コロナ禍での対応課題」（113号）、「次代の子どもへの資質向上責務」（112号）等に例示しましたが、我々が直面する大きな課題は以下の専門性資質の向上が重要です。従って私見ですが幼児教育業務では在宅個別化でのテレワークは、会議や研修等を除けば日常業務として基本的になじまないと考えております。○幼児期は依存から自立への発達過程。集団での遊びを通した適切な環境での総合的指導が基本。○幼児集団が整えられた環境で主体的な遊びや対話活動を通して、心情・意欲・態度が育まれる。○感染拡大リスクを勘案し、保育活動の制限、休業、縮小の保育指導の見直しが必要となった。○各園なりの感染発症を想定した対応マニュアルの作成と随時確認。

以上が基本的な項目ですが、昨年から幼児期における教育・保育が次代を支える人格形成として重視され、国家財政による無償化が実現した状況も踏まえ、更に専門性の資質の向上が強く求められます。

## 2、幼児教育・保育の資質の問い直し

さてポストコロナに向け資質基準が十分に確保されているか問い直す良い機会です。例えば、制度や政策の方向性として保護者の利便性に焦点が当てられ、保育標準時間は11時間が認可基準であり、家庭や保護者から離される長時間保育は乳幼児の発達における質の向上になるのか。また施設における保育者と子どもの対応比率は世界的に見ても低い基準で質の向上とは程遠い状況等々。

つまり施設での子どもへの関わりにとどまらず、保護者の働き方見直しを前提としたポストコロナへの対応です。OECDの調査資質基準を参考に、①志向性の質：何を大事にどの様な方向性を目指しているか（法律、規制、政策の方向性や目標）②構造の質：施設の広さや備えるべき条件（物的・人的環境基準、保育者の養成・研修、労働条件環境）③教育の概念や内容の質：教育内容や実践としての考え方（教育要領や保育指針、発達に沿う指導計画等）④保育プロセスの質：保育者と子ども達、子ども同士のやり取りや活動過程（育ちをもたらす安心感や教育的意図、関係性）⑤園としての実施運営の質：現場ニーズへの対応、質向上の効果的運営（園やクラスレベルの指導計画、専門性向上のチーム編成、組織全体が生み出す園の風土・雰囲気等）⑥成果の質、パフォマンス基準：運営が適性な保育成果を上る仕組み、未来の子ども達にとっての幸せにつながっているか。

## 3、加速されるICT・デジタル化への対応

一方業務のテレワーク、オンライン化がポストコロナの重要課題として加速されておることは現実です。前述しましたが、保育者と幼児集団の直接的な力動性に育ちの指導を根底とする業務ですが、保幼小の接続強化の上では、学校教育分野でのGIGAスクール構想を念頭に保育指導のICT化をどのように取り入れ活用していくかを真剣に考えていく必要があります。ソサエテイー5.0時代への移行に向け教育・保育をより効果的に向上するデジタル化の指導ツールとしては避けて通れない課題です。

またポストコロナ時代に向け変革する制度やSDGｓ（持続可能な開発目標）全ての子どもに質の高い幼児教育を受ける機会を保障し、その質の向上に取り組むことが求められる子ども観の基に、自治体や国規準の幼児教育センター設置や幼児教育アドバイザー等の導入による質の向上の諸則面を考慮しつつ、多様性に対応し自園独自の「質の向上課題」を組織内で共通化し実現することが課題です。

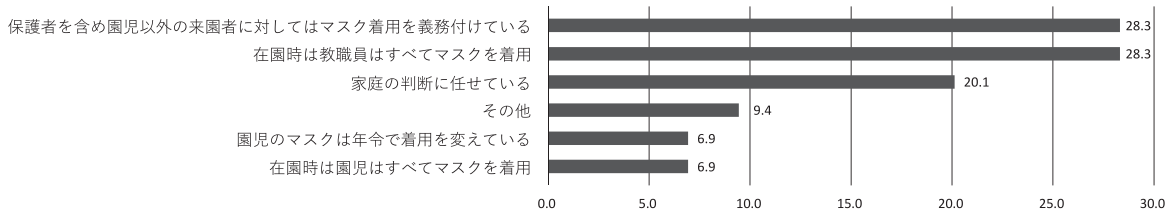
# コロナ対応に係る園運営のアンケート集計報告

アンケート実施期間（R2.11.19～11.30）

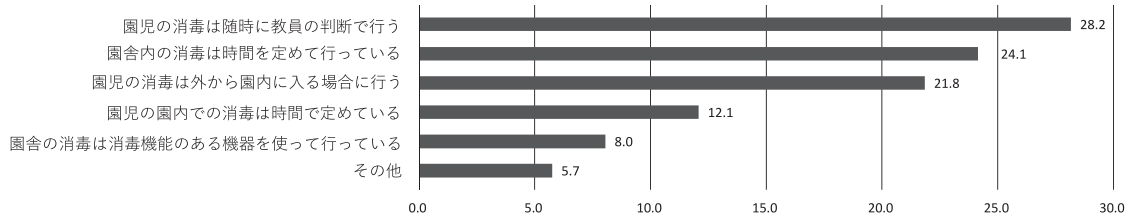
アンケート回答総数　加盟園 74 園中 54 園（回答率 72.9 %）

（単位：%）

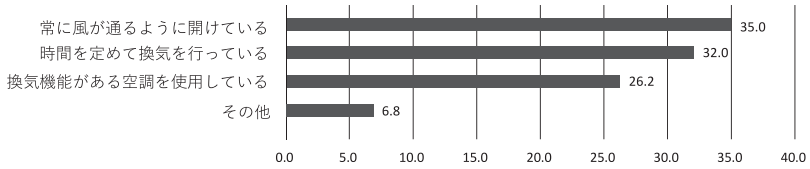
## 1-1　マスク着用について



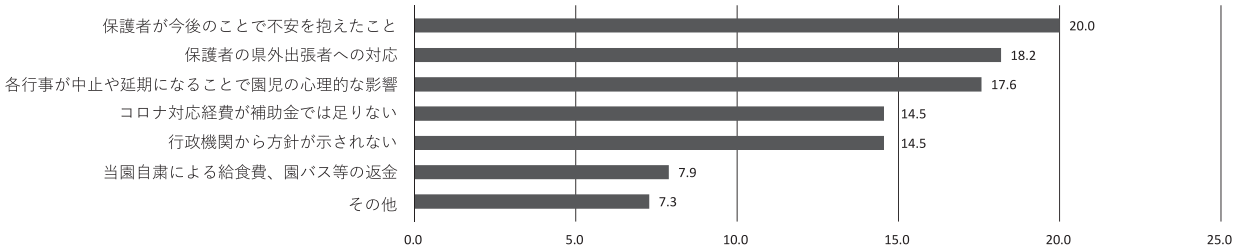

## 1-2　消毒について



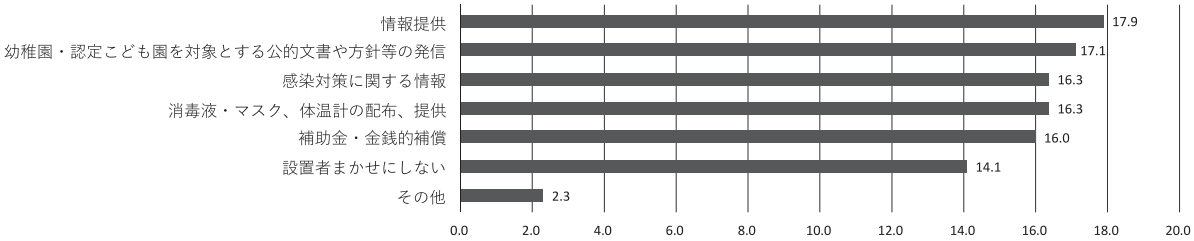

## 1-3　換気について



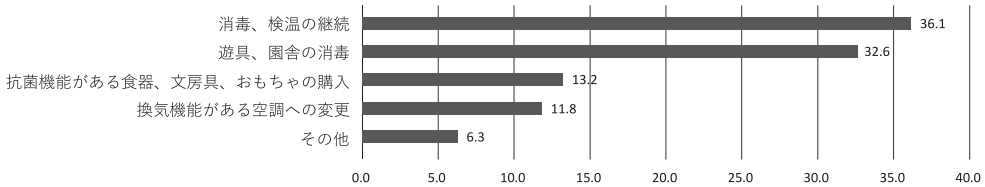

## 2　コロナ対応で困った点はなんですか




## 3　今後のコロナ対応で、県・市町村に臨むことは何ですか




## 4　今後、コロナ対応を強化したいと考えていることは何ですか



# 令和2年度総合研修会

令和３年１月12日・13日の２日間にわたり、花巻温泉ホテル千秋閣に於いて開催されました。参加園は47園で参加者は初日222名、２日目128名を数え、全体会のほか経営セミナーと教員研修の分科会に分かれて開催されました。

## 講演『障がい児の理解と援助』

**講師　岩手大学教育学部特別支援教育科　准教授　滝吉美知香　先生**

総合研修会1日目の全体講演は経営委員会と教育研究委員会による合同研修として行われた。講師には、岩手大学教育学部准教授の滝吉美知香先生をお迎えし、「障がい児の理解と援助」をテーマに1時間30分の講演であった。

我々保育者が、現場で保育にあたる中で、さまざまな子どもの成長や特性を感じることがあるが、それらの中で障がいとされる種類やその特徴などをわかりやすく説明を頂いた事で、早期に発見することや障がいをもった子どもに正しく向き合う大切さを感じた。また、何よりも障がいをもった子自身が集団の中で「生きづらさ」を感じることがないように、障がいをもった子への配慮だけでなく周囲の子の反応など注意深く観察し寄り添うことの重要性を強く感じた講演であった。個性豊かな個々の集団を保育していく中で、障がいをもったお子さんやその保護者の方との連携など難しいことは沢山あるが、すべての子どもの幸せな将来のために本日伺ったお話を大切に受け止めていきたい。滝吉先生ありがとうございました。

## 講演『組織目標の設定について』

**講師　岩手県教育委員会事務局学校調整課　主任指導主事　小松山浩樹　先生**

岩手県教育委員会事務局学校調整課主任主導主事小松山浩樹先生をお招きして安全教育を視点に「組織目標の設定」の仕方について講義を頂いた。そのポイントは、一人一人の主体的考えたことを共有しながら目標実現を目指せる組織づくりであった。また、リーダーの資質で大切なことは、情報の収集とその精査、それを基に状況判断をして決断する事であると述べられた。学校安全の組織目標の設定例を示し、そのねらいを幼児が自他の生命尊重を基盤として、自他へ安全に貢献できる資質や能力を育成し、幼児の安全を確保するための環境整備することにあり、その際、危機管理に対応して安全管理と安全教育の両面から取り組むことが必要であると説明された。その危機管理の内容は、事件事故を未然に防ぐ「事前の危機管理」、事件事故の発生時に適切かつ迅速に対処する「個別の危機管理」、危機が収まった後の対処に関する「事後の危機管理」に対応しているかを確認する必要があると述べられた。また、個々にチェックリストを活用した実習も行われた。

# 講演『私立幼稚園の振興施策について』

講師　岩手県ふるさと振興部学事振興課　私学振興担当課長　**菅原俊樹**　先生

岩手県ふるさと振興部学事振興課私学振興担当課長の菅原俊樹様をお迎えして、私立幼稚園の振興施策についてご説明を頂いた。私学振興担当の部署からの説明なので、あらかじめ私学助成を受けている幼稚園に焦点を当てて話す旨の説明がなされた。コロナ対策についての報告があり、その中でも特記すべきことは、令和３年１月５日の通達で教職員や生徒１名の感染他を以て学校全体の休業は控えるというもので、幼稚園に関しては、幼児が一人で在宅することは現実にそぐわないので、預かり保育等を活用して居場所の確保を依頼する旨の通達があったと述べた。また、県内の私学助成園の現状の報告があり、所管する園数は、48園で園児4539名。その内私学助成園は18園、施設型給付園は19園、幼稚園型は11園で教員総数が835名との報告がなされた。担当する事業内容に関しては、12月補正予算で県の最後の単独補助でエアコンの整備事業が60万円を上限として３分２の補助を行う予算措置が決定したとの報告と特別支援教育費補助の説明、更には教育改革事業のうち預かり保育事業の補助の見直しが平成３年度から行われるとの報告があり、今後の通達を注視する必要があると考える。

# 講演『幼児教育の質向上について考える』

講師　盛岡大学文学部児童教育学科　教授　**石川悟司**　先生

総合研修会１日目午後の経営セミナー最後の時間は、講師に盛岡大学文学部児童教育学科教授の石川悟司先生からご講演を頂いた。「幼児教育の質向上について考える」をテーマに１時間の講演であった。新制度の施行から多くの公費が投入されるようになった教育・保育施設にとって非常に重要である質の向上については、多くの園が特色を生かした保育の質の向上に取り組んできているなかで、あらためて「保育の質」とは、「保育の質」を上げるとは、という具体的な中身についてのお話を伺った。質の向上を目的に保育者が研修へ参加し、多くの知識を得る機会はあるが、実際にそのことが保育の質の向上へ結びついているのか、また研修で得た知識や技術が保育の実践に生かされているかといったご指摘は、心に刺さる内容であった。多くの参加者は、園長・副園長・主任であったが、目の覚める講演であったのではなかろうか。石川先生には、大変お忙しい中、調査データを交えた資料の提供をいただき感謝いたします。

# 講演『乳児保育の環境と適切な関わり』

講師　修紅短期大学　非常勤講師　**小金森姫子**　先生

乳児期の保育の環境について、先ず大事なのは、「安全・安心」という視点から、０歳児・１歳児・２歳児おける保育環境のポイントを具体的に話していただきました。そのことを踏まえ、乳児期における発達に即した遊び、生活習慣の自立に向けて、安心感をもって過ごせること、生活のリズムを整えること、自ら遊びを見つけられるように、子どもの表情、仕草、発声などから、保育者は、内面からの気持ちをくみ取り、受容的、応答的なかかわり、動きたい欲求を妨げない環境が大切。

また、「環境」は、保育の全てに関係していることを保育者は理解し、保育に生かしていかなければならない。温かく愛情のある保育をするために一人の保育者として、一人の人間として、笑顔で明るく余裕をもった保育を。結びに発達の連続性の視点から、乳児期は「学びの芽生え」の時期と捉え、保育の積み重ね、発達の連続性をさらに確かなものになっていく生活を大切に。

# 講演『食育計画』

講師　岩手県立大学盛岡短期大学部生活科学科食物栄養学専攻　浅沼美由希　先生

食育基本法では、生きる力を身に付けていくためなによりも「食」は重要。その上で食育は家庭が基本と位置づけられ、様々な経験を通じて「食」に関する知識と、「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践できる人間を育てることが最終の目的である。そのことを踏まえて、食育の計画、実践、評価、改善をどうするか。

先ずＰＤ体験として、ワークシートに各園それぞれ教育目標に向けて、食育の達成目標（長期）明確にした上で、各学年の月別の目標を立案してみる体験をした。食育も年間指導計画をもって進めていくと、教育目標が達成されやすい。但し、評価、改善にあたっては、食育の目的がどう達成されたかを、「どの方法で確認するか」評価方法を決めておくことが重要である。評価できないと「計画の見直し」ができない。ＰＤＣＡが回るということは、次年度の計画、指導につながり、延いて小学校に反映されていくことだと締めくくられた。

# 講演『私立幼稚園の喫緊状況と経営課題』
# ～コロナ禍・園児減少・資質向上処遇改善～」

講師　（一社）岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会　会長　坂本　洋

総合研修会２日目の１コマ目は、「私立幼稚園の喫緊情況と経営課題～コロナ禍・園児減少・資質向上処遇改善～」をテーマに本連合会会長の坂本洋先生に講師を務めていただいた。テーマとして掲げたコロナ禍・園児減少・資質向上処遇改善は、まさに我々が直面している課題であり、今後の取り組みが園の将来そして子ども達の将来にかかっていることである。そうした最重要課題について、多くのデータの分析や情勢分析の解説いただきました。

今後、変わりゆく生活スタイルやICT化が進む社会や教育に我々幼児教育に携わる者がどのように変化に対応していくのか、どう取り入れていくのかなど視野を広く、変化に柔軟に対応していく姿勢が大切であることを学んだ。また、さまざま変化していく中でも変わらない幼児教育の本質は、今後も大切にしながら地域に選ばれる保育・教育の提供を行う施設を目指していきたい。そんな思いを抱く講演であった。

# 講演『就業規則とキャリアパス』

講師　特定社会保険労務士　高橋道枝　先生

２日目の最終講義は、杜の都労働コンサルタンツ共同代表で特定社会保険労務士の高橋道枝先生から就業規則においての留意点とキャリアパスの仕組み作りについて詳細な資料を基に講義をして頂いた。就業規則に関しては、度々法令などの改正があるために注意が必要である。就業規則を定めるにおいて法令が定める基準を下回る就業規則の部分に関しては無効になるので、改正が行われていないかに注意をしておくことが必要である。特に時代に合わなくなって労使慣行の排除を目的とした働き方改革においては、「同一労働・同一賃金」「長時間労働の是正」「家庭生活との両立」を重点項目として注意を払う必要がある。

また、処遇改善加算Ⅰ・Ⅱの考え方と分配の仕組みについてもご説明頂いた。そのためにはキャリアパス制度をどのように構築していくのかが大切であり、管理職・中間管理職・一般職等のモデルケースをお示し頂きながら具体的手法をお示し頂いた。

# 地区会だより

## 県北「創意工夫をしながら今できること!!」

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に対応しなければならない大変厳しい年となりました。県北地区では園生活や行事においても感染症対策ガイドラインに基づき引き続き感染予防に努めています。今年度当園では毎年秋に行われている介護施設訪問「ハロウィンパレード」を窓越しで行い、おじいちゃんおばあちゃんに元気を届けてきました。ガラス１枚で隔たれていましたが涙を流して喜んでくれる姿もあり感慨深いものがありました。私たち職員にとって、コロナ禍の中でも創意工夫によって実施できるということを学んだ良い機会となりました。また久慈地区では冬期間は交通の便が不便になることもありオンライン研修を取り入れる必要性があると感じています。今後も時代の流れに対し、多様な視点を持って柔軟に対応する力が必要と考えます。

（岩手保健医療大学附属認定こども園　園長　平船しずか）

ハッピーハロウィン!!　おじいちゃんおばあちゃん元気でね～

## 盛岡「新しい時代をのびやかに生きる」～社会に開かれた質の高い幼児教育を～

「さむくてもへっちゃら！雪遊びはおもしろい」

今年度は、コロナ禍の１年となり、例年通りの地区研究会を実施することが困難となりましたが、各班でそれぞれ工夫し合いながら話し合いを進めています。７月に盛岡大学文学部児童教育学科教授石川悟司先生からお話しいただいた中の、保育を語らうときのファシリテータとしての演出キーワード“やさしく・ふかく・おもしろく・まじめに・ゆかいに”を意識し、先生方が活発に意見を出し合い、意欲的に取り組んでいけるような雰囲気を心がけながら、例会を行ってきました。

私たちは、いかなる状況の中でも、子どもたちと向き合い、一人一人がその子らしくのびやかに成長していけるように、日々精進してまいりたいと思っております。

子どもたちの輝く瞳の先を、思い描きながら･･･。

（幼保連携型認定こども園月が丘幼稚園・保育園　主任　鹿川道子）

## 中部「園内研修から園の未来を考える」

本園では、園全体の保育の質の向上、個々のスキルアップを目的とした園内研修を、年に数回行っております。ねらいに沿った活動計画の実践と考察、安全な遊び場を作るための環境作り等、テーマは様々です。また今年度は『岩手県幼稚園教育研究協議会』の研究発表に向けて、支援が必要な子に対する支援体制の見直しと、子ども達が共に育ち合うための環境作りや援助の仕方について、職員一丸となって考えてきました。

夏休み中には『園の強み・弱み』をテーマにグループワークを行いました。園内環境、日々の保育や行事の内容、事務業務に至るまで、見直しが必要な点はどこか、課題点を『強み』に変えるにはどうすべきかを考えました。この『話す・伝える』という時間が職員間のコミュニケーションを深め、また様々な考え方を知る事で自らの学びが深まっていったように思います。フリートークで繰り出すグループワークは楽しさも持ち合わせ、自らが話したい環境、その雰囲気を全員で作り出し、有意義な時間を過ごす事が出来ました。

来年度より本園は認定こども園へと移行します。明るく希望に溢れた園を目指していく為、今後も私達の学びと挑戦は続いていきます。

（専修大学北上幼稚園　教諭　小原久美子）

グループで話し合った内容を「見える化」したもの。研修会後に振り返りをしている先生方です。普段は職員室に掲示しています。

## 県南「各園の質の向上をめざして」

感染対策をしながら開催した年長児最後のおゆうぎ会

県南地区奥州支部では隔月で主任会を開催しています。主な内容は、現在の課題等についてと各園の園内研修についての意見交換です。特にも今年度はコロナ禍における感染予防対策、環境構成、行事の持ち方等について各園での工夫を紹介し合い、支部内の園が気持ちを一つに取り組んできました。また、園内研修の内容については、お互いの園の研修内容を知ることで自園の保育を振り返ることができ、質の向上の手立てに繋げています。更に2月に開催する支部内の研究発表会では、各園の教員が参加して研鑽を深める予定になっています。

先が見えにくい状況が続いていますが、どのような状況下においても子ども達の健やかな成長と明るい未来のため、今後も工夫をしながら研修を積み重ねていきたいと思います。

（認定こども園水沢こども園　副園長兼主幹保育教諭　鈴木良枝）

## 沿岸「遊びが充実するための環境づくり」

「子どもと共に作り出す“活動と環境”」をテーマに研究をはじめて、２年継続の１年目が終わろうとしています。今回は、大槌・釜石・遠野ブロック、宮古・山田ブロックともに園ごと（９園）で研究を進めています。これまでのように、みんなで集まって研究の報告会をすることが難しい状況ではありますが、少人数で１年間の研究内容を報告し合うことができました。

今年度は共通理解を重点に、主体的に活動に取り組めるための子どもの捉え方や遊びが充実するような環境の工夫について研究を進め、これまでの保育や環境構成を見直し、工夫しながら実践しているところです。

各園の研究内容も参考にしながら次年度へつなげたいと思います。そして来年度は、講師を招いた報告会ができることを願っています。

（山田幼稚園　園長　昆　暉雄）

研究報告会の様子

### 第36回岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会　教員研修大会(盛岡大会)《ご案内》

大会主題　「新しい時代を伸びやかに生きる」
～社会に開かれた
質の高い幼児教育を～

期　　日　令和３年３月24日（水）

会　　場　盛岡グランドホテル
盛岡市愛宕下1-10　TEL 019-625-2111

記念講演　演　題「乳幼児期におけるアタッチメントと非認知的な心の発達」

講　　師　東京大学大学院教育学研究科
教授　遠藤　利彦　先生

【第１分科会】

◆発表テーマ「子ども達が主体的に遊ぶことができるような環境構成について実践を通して考える」

・発表者　水道橋くるみ幼稚園
保育教諭　小笠原真佐子（盛岡地区）

・助言者　岩手県立総合教育センター
主任研修指導主事　吉田　澄江 先生

【第２分科会】

◆発表テーマ「保護者の気持ちに寄り添った支援の在り方を考える
～保育教諭の質の向上を目指して～」

・発表者　認定こども園　水沢こども園
保育教諭　菅原　希（県南地区）

・助言者　岩手県教育委員会　学校教育課
主任指導主事　福岡　喜久子 先生

【第３分科会】

◆発表テーマ「子どもの豊かな感性と表現する力を育てるための環境構成と教師の関わりを考える」

・発表者　むらさきの幼稚園
教諭　杉澤　訓子（中部地区）

・助言者　盛岡大学文学部　児童教育学科
教授　石川　悟司 先生

◆発表テーマ「子どもとともに作りだす“活動と環境”

・発表者　おさなご幼稚園
教諭　小林　由茄（沿岸地区）

・助言者　盛岡大学文学部　児童教育学科
教授　石川　悟司 先生

●編集後記

宮沢賢治の絵本「雪わたり」の中で二人の子供が「型雪かんこ・凍雪しんこ」と言いながらを森へ遊びに行くシーンがあります。子ども達は年末からの雪と寒波に体も心も凍りつくような日々が続く中、元気に寒さも、コロナも関係なく雪の中を転げまわり、雪と戯れている子ども達をみていると、コロナのことを一瞬忘れる幸せを感じます。

３学期もまだまだコロナ下での生活が続きそうですが、必ず新しい春が来るように、コロナの収束までは、さらなる感染防止に努めながら一年の締めくりの保育の充実に努めていきたいと思います。

（政策委員　植村生子）